

授業科目名 <英訳>	日本史 I Japanese History I		担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 西山 良平			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2016・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
古代都市の発展と平安京の成立							
<p>平安京の成立を日本の都市史の上に位置づけ、現在の京都における都市問題・都市環境の解決に示唆をうることを目的とする。平安京を古代都市の発展過程に位置づけ、都城としての平安京までを検証する。授業を弥生時代から開始するのは、学問的な都市論は弥生時代の池上・曾根遺跡から論じられるためである。</p> <p>本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。</p>							
[到達目標]							
日本の弥生時代から平安時代初期までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、発掘調査の成果や文献史料の原典を自分の力で読解し、新しい情報を発見して、歴史像を組み立てるための技術を身につける。							
[授業計画と内容]							
日本の古代都市の成立は、それを弥生時代や古墳時代、7世紀の飛鳥、7世紀末・8世紀の古代都城などにもとめる諸説がある。日本の古代都市を明らかにするため、まず、都市の定義を概説し、弥生時代の池上・曾根遺跡を素材に大環濠集落に関する論点を整理する。つぎに、古墳時代の纏向遺跡・南郷遺跡群・脇本遺跡など都市的遺跡を紹介する。また、飛鳥の膨大な発掘成果と文献史料から、その都市的性格の有無を検討する。さらに、古代都城を取り上げ、藤原京と平城京の実態を解明し、最後に長岡京遷都・平安京成立を解明する。文献史料と発掘成果の両面から、古代都市の発展と平安京の成立の意義を説明する。近年は発掘調査の成果が顕著であるので、臨機応変に重要な遺跡のスライドなどを使用し、古代都市の実像を紹介する。自由参加形式で1～2回、現地を見学する予定である。							
<ol style="list-style-type: none"> 1 都市の概念と弥生時代の大環濠集落(2回) 2 古墳時代の都市的遺跡(2回) 3 飛鳥の都市的性格(2回) 4 藤原京の成立(2回) 5 平城京の構造(2回) 6 長岡京遷都(2回) 7 平安京の成立(2回) 							
[履修要件]							
特になし							
----- 日本史 I (2)へ続く -----							

日本史 I (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験にて成績評価する。持ち込みは一切なし。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

木下・佐藤編 『飛鳥から藤原京へ』 (吉川弘文館) ISBN:978-4-642-06291-6

田辺・佐藤編 『平城京の時代』 (吉川弘文館) ISBN:978-4-642-06292-3

西山・鈴木編 『恒久の都 平安京』 (吉川弘文館) ISBN:978-4-642-06293-0

ともに2010年 2940円

[授業外学習(予習・復習)等]

授業の進行はシラバスに記載の通りであるので、授業の進行を確認の上、各回の授業内容に想定し、予習をすることが望ましい。

[その他(オフィスアワー等)]

定期試験の採点は厳格・厳正に行なう。